十色
TOIRO

十色とうがらしファーム
TOIRO PEPPER FARM

合同会社十色
代表　サカール祥子

トピック

自己紹介「十色について」

事業について

農福連携について

十色について

サカール　祥子

代表社員、CEO

釘宮　葵

業務執行役員、COO

松葉　早智

役員

【沿革】

2021年2月

　サカール就農

2021年3月

　合同会社十色設立

2021年4月

　十色とうがらしファーム開設

十色がめざすこと

十色は、

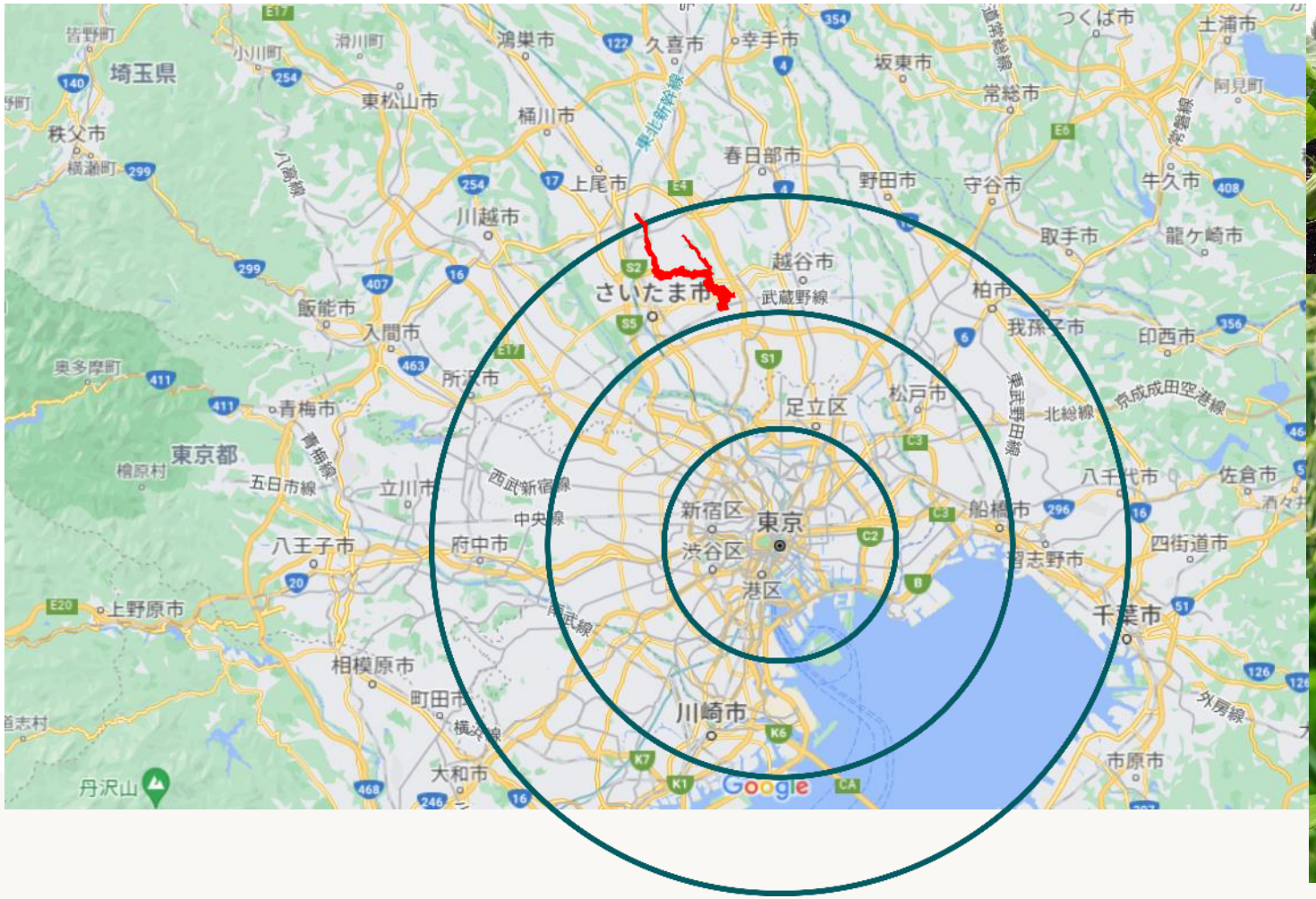
「畑はエンターテインメント！」を合言葉に、

まちと農業をつなぎ、

持続可能な農業の実現を目指す会社です。

見沼田んぼについて

東京から３０km圏内に保全された1260haの農地



事業の二本柱

■農業体験事業

■十色とうがらしファーム事業

さいたまを激辛の聖地に！

十色とうがらしファーム事業

- 4,600㎡（サッカーコート2/3くらいの広さ）
- 48種類の世界の唐辛子を生産（2023）
- 卸販売が主
- さいたまヨーロッパ野菜研究会の野菜としても
- 一般販売は食べチョク、ポケマルで

人手が足りない！

とうがらしの生産販売は、収穫時期に
人手が足りない！

常勤雇用は難しいので、繁忙期のみ
業務委託したい。

十色の農福連携の進め方

雇用に向けた
ハードルの
認識

まずは
福祉団体と
の連携を！

将来的には
常勤雇
用！

法定雇用
人数に悩む
法人との連
携？

- 教育にかける資金的、人的余裕のなさ
- 働く環境の整備が難しい（見沼田んぼの特性）

- 連携すると、仕事をしてもらえるだけでなく、福祉団体を支援する人たちにも取り組みや商品を知ってもらえる！

- 人によっては業務委託契約もあり。
- 地域で雇用する考え方も。

十色の農福連携の現状

福祉との連携

現在行っている連携

- 貧困支援
- 障害福祉入所施設（知的）
- 障害福祉通所施設（知的）
- 障害福祉通所施設（区別なし）

実現していない連携

- DV被害支援（女性）
- 障害のある人個人との連携

農家との連携

- 情報交換

福祉団体　連携先の共通点

- 地域との連携に積極的である
- 活動内容が毎日同じでなく、臨機応変に対応できる

福祉団体と連携するときのネックになること

- 露地なので、季節労働になる。
- 畑作業は、天候によって休みになることも。
- 職員が農作業に対し抵抗感がないかどうか。

事例1　障害　通所施設
地域活動支援センター　就労センター夢燈館、プラザ夢燈館

就労センター夢燈館：リサイクルショップの運営
プラザ夢燈館：手作りクッキー・アクセサリー販売

連携方法：作業委託

就労センター夢燈館：除草、収穫
プラザ夢燈館：出荷調整、発送

・あらかじめ日程調整をし、作業内容、量、締め切り、単価を相談して、仕事を依頼。

事例2　障害　入所施設
社会福祉法人久美愛園　互助の里

生活全般に関する相談や助言等、日常生活の支援。創作的活動や生産活動の機会の提供。身体機能や生活能力向上に必要な援助も含め一体的な支援を行う。

連携方法：作業委託

・除草、収穫。作業内容と金額を相談。
・利用者の様子によって来られる日や時間が安定しない
・締め切りを設けなくてもよい、常にある仕事をお願いする

事例3　貧困支援　NPO法人ほっとプラス

生活や福祉に関する生活相談、福祉サービス利用支援、シェルター提供。

連携方法：

- 農作業の仕事を希望する個人を紹介してもらう
- 当初はその個人に対し作業を委託。
- 現在不定期パートタイムで雇用。
- 定期パートタイムで雇用に変更予定。

事例3　シングルマザー×岩槻区の農家

貧困支援、障害福祉施設、シングルマザー個人に作業を試してもらったところ、一番相性が良かったのがシングルマザー個人だった。

連携方法：不定期パートタイム

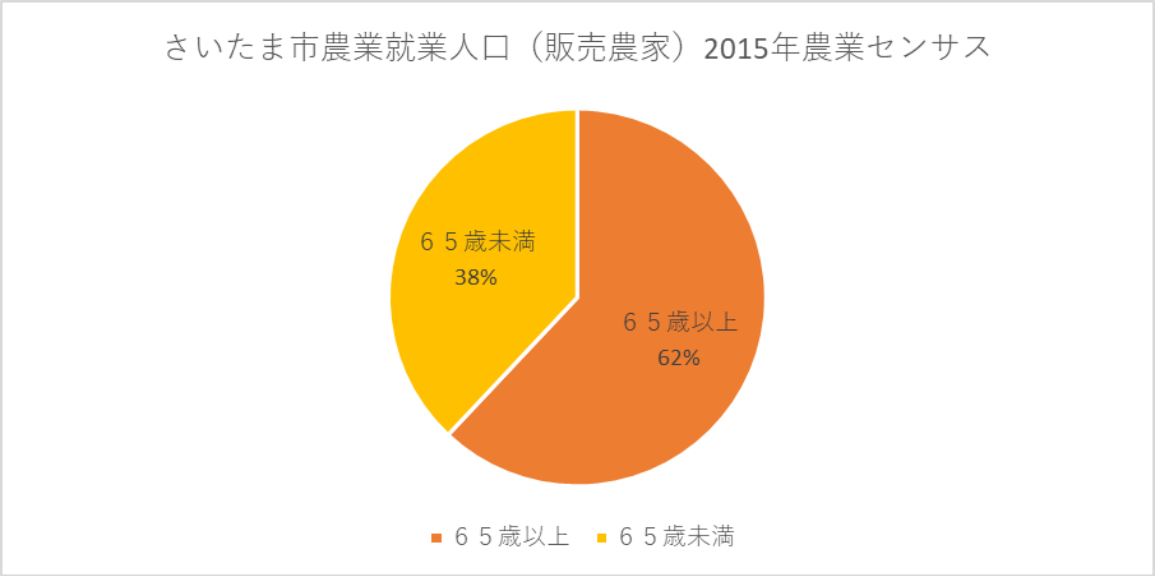
- 繁忙期に仕事を依頼
- 親世代がお願いしていたパートさんと同じ感覚で頼める。
- 自力で交通費をかけずに通える人

農家×個人の場合

- マッチングの仕組み
- うまくいかなかった場合の原因など情報の蓄積、整理

農家との連携①　必要性

- 高齢化が加速
- さいたま市は家族経営の小規模農家が多い



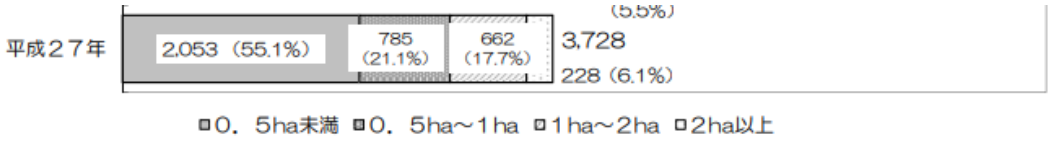


図８　経営規模別農家数

出典：「農業センサス・農林業センサス・世界農林業センサス」農林水産省
※自給的農家については、0.5ha未満に合計している。

農家との連携②　農家の意見

- 興味はあるが、どうしたらいいかわからない。
- 安く仕事をお願いできるのであれば。
- 設備がない（作業場に手洗いなどがない）。
- 今はまだ親がいっしょにやっているのでいいが。
- 受け入れ人数と金額の兼ね合いが心配。
- 繁忙期だけお願いしたいが。
- 親に理解してもらうのが大変

さいたま市の農福連携への取り組み

さいたま市農業振興ビジョン（都市農業基本指針）は、さいたま市都市農業の振興に関する条例に基づき、都市農業の振興に関する基本的施策等を総合的かつ計画的に推進し、又は実行するための基本的な方針を定めたものです。

表１　さいたま市農業振興ビジョンの施策の体系

基本方針 （将来目標）	施策の柱	個別施策
農業 持続可能で元気な さいたま市「農業」を確立します	1　地産地消の確立	①地産地消の推進 ②消費拡大拠点、流通システムの形成
	2　農業経営の安定・生産性の向上	③農業経営の安定化 ④付加価値の形成 ⑤担い手の育成
農地 多面的機能を活かした 「農地」の保全を進めます	3　農地の保全と農業の持続	⑥農環境の保全と改善 ⑦遊休農地の解消と活用 ⑧農地流動化対策の推進
農コミュニティ 農のある豊かなくらしを共有する 「農コミュニティ」を育みます	4　農のあるまちづくりの推進	⑨価値と魅力の共有 ⑩市民による支援と協働 ⑪食農教育の推進

出典：令和２年度版さいたま市の農業

埼玉県の農福連携の取り組み

× 障害者農業参入チャレンジ事業

平成26年度から令和3年度（H28年12件、R3年２件）

障害者就労施設が玉ねぎ生産・販売を行うことで工賃向上。

技術指導・習得支援を受けて生産・出荷。

・ 農福連携マッチングモデル事業

令和２年度　２件

民間事業者に委託し農家（法人）と施設のマッチングをする

今後の十色の農福連携について

- 現状の連携方法をより安定させる
  - 作業内容、方法を、連携先と調整し、確立する
- 農家、福祉施設、行政との情報交換をもっと
  - マッチングの機会を増やす。
  - 地域で雇用する取り組みにつなげる。
- 雇用に向けた取り組みを行う
  - 労働環境の整備
  - 企業在籍型ジョブコーチの育成

加工品の製造

- シェフ、近隣スタートアップ、異業種とのコラボ
- ほぼOEM

その他面白い取り組み

- 芝浦工大システム工学授業における、企業の課題解決プログラム
- おふろcafé utataneとのコラボ
- JUASTとのコラボ
- クラウドファンディング
- 畑でBBQ！

ありがとうございます

Web

Facebook

Instagram

Twitter